

子ども食堂「すこやかサタディ」開始の状況説明資料

南部まちづくり協議会 新事業企画 G

「子ども食堂」設置理由(確認)

1. 日本の場合、ひとり親など大人が1人の家庭に限ると54.6%（2014年発表）で、先進国の中でも最悪の水準です。
子どもの貧困は見えにくいですね。ボロボロの服を着ているわけじゃない。お金のあるなしにかかわらず、大量生産の同じ服を着ているし、親の多くはスマホを持って**ぱっと見ではわかりません**。
2. 貧困とは何か。生活していくために必要なものがあるのに、その必要を満たすお金が欠如する。結果、暮らしは破壊され、権利は奪われます。「必要」は時代にあわせて定義しないと対応策を考えることができません。
 高度成長期の1970年代以降、日本の社会福祉の領域で、貧困は過去の問題とされてきました。高齢化や介護問題、非行問題が豊かさのひずみとして説明されていました。
3. 子どもの貧困とは、世帯だけでなく、子ども個人に焦点をあてるとらえ方です。子どもを主体に考えると、子どもの成長や日々の幸せに経済問題がどう影響しているか、どうしたらいいかが見えてきます。
 大きくは二つ。親のお金を増やすことと、お金がなくても困らないようにすること。後者は親の格差を子どもの世界に持ちこまない施策です。保育、教育、医療といった領域で貧困を和らげる工夫が必要です。
4. 子どもにとっての貧困とは、単にお金が無いというだけではなく、生きていく上で必要な様々な知識を与えてくれる大人が身近にいない、豊かな感性をみがくために必要な機会を得られない。子どもは生まれてくる環境・親を自分で選べない。最も恐れる貧困は、夢を見ることが出来ない生活になること。きれいごとなしに子どもにはお金と愛情が必要不可欠です」。長い時間これが欠乏すると子どもに待っているのは孤独感、悲しさ、寂しさ、ついには耐え難い絶望感を持ち、やけっぱちな考えと行動、無気力、などにより非行へ進んで行く事が多いです。
5. 「自らの責任ではない貧困で、多くの子どもたちが、豊かな経験を積みなかつたり、温かい人びとに囲まれた環境で育てなかつたり、中には食事也十分に取れていなくて、学校での給食が一日で唯一の食事という子もいるというのです。
 子どもというのは学校と家庭の間のもとても狭い世界で生きています。親がこの現状を隠すということで、子どもたちの現状は外からは気づかれにくくなっています。
6. 「子どもの貧困対策法」が作られ、その具体的な対策を定めたものが2014年に示されました。具体的な政策としては、
 ・教育の支援 ・生活の支援 ・保護者に対する就労の支援 ・経済的支援
 法令があれば直ちに子どもの貧困が解消できるものではなく、子どもの身近なところで直接的な支援が一番大切であり効果も大きいです。すなわち学校と地域を主とした支援体制がなければ一刻を待てない子ども達を救えないこととなります。
7. 中でも重要なものは食事です。子どもは腹一杯食べて、穏やかな心を保ち頭脳と共に健やかに成長していく原動力となります。子どもの貧困支援に対し地域として何が出来、何をすべきか考えますと、子どもへの食事支援が最も効果的で地域支援にふさわしいと考えます。

「子どもの貧困対策法」の成立から3年。 今からでもいいから本気で考えよう、そして行動しよう

- ◆ 「子どもの貧困対策法」の成立から3年が経過し、大綱の閣議決定や、各都道府県の対策計画策定、政府の「子供の未来応援国民運動」としては、前進しているような3年間であった。
- ◆ 民間の動きとしても、3年前までは学習支援が主流であったが、この1年は「子ども食堂」というスタイルが全国各地で広がってきた、高浜市でも28年度では「子どもの貧困対策プロジェクト」を開始しました。「第三の居場所」づくりと、貧困の連鎖を断つような支援活動の具体化が開始されています
- ◆ 貧困とは「貧しく」て「困る」と書きます、食事・入浴などの生活支援や、学習支援、など毎日の苦しさを子どもから少しでも減らしたい、困ることを緩和したいと思うが、現状はまだまだ子どもの声を聞く場をもつことすらできていない。貧困実態すら把握できていない現状だ。
- ◆ 子どもの貧困問題については、一部専門家・専門職のなかでは議論されても、一般的には議論なされる機会は少ない、「子ども」の貧困はなんとかしなければいけないということは理解できても、その方法や優先順位などには認識に違いがある、今現在はスタートラインに立ったのだと思います。
- ◆ 「ひとりぼっちで夜の家で育つ子どもの気持ちは？」 寂しい夜を過ごす子どもに大人は何かしているのか。子ども達はあきらめを越して絶望的な気持ちでいるのかも知れないぞ
- ◆ 子どもたちは生まれてくる親や社会（地域や時代）を選ぶことはできません。今の時代は親の自己努力や従来につながりだけで、子育ては何ともならない時代に突入しています。
- ◆ 子どもに貧困の責任はない、「子どもの貧困」を軽減するために、市民の力を必要としています。特に行政や民間サービスでサポートしにくい夜の時間をどうするのか考えよう
- ◆ もし、あなたが貧困を抱える家庭で育ったならば、自分の努力だけで、今と同じような人生を歩んでこられたでしょうか。
- ◆ 地域のなかで、家庭と学校だけでなく子どもを支えていく場が求められています。子どもとおとなと地域とが支え合って生まれる力は、ほんとうに凄いものがあるぞ！きつと？

報告資料

南部まち協企画～29年4月子ども食堂「すこやかサタディ」立上げの概要

以下に検討項目と立ち上がりの実行状況を示しました。

	項 目	検 討 事 項	実 施 事 項
1	食堂名称	南部子ども食堂、さわやか食堂、など多数を検討	心身共に健康であればの目的に合致する「すこやかサタディ」に決定
2	営業日の設定	毎週土曜日17時～20時 ※立ち上げ年度は隔週土曜日で開始したい	当面の間習熟するまでは概ね第二・第四土曜日17時～20時で実施する
3	装備関係	調査(ガス、水道、電気、冷暖房、厨房機器、フロアスペース約40平方メートル(12坪))が使用可能調査	NPO法人高浜市社会福祉協議会の施設地域共生型福祉施設宅老所あっぱの使用を了解頂き決定した
4	開設場所	選定(宅老所あっぱ、第二ふれあいプラザ、ふるふる、和人家倉庫、国松宅、)を対象に検討する	同上
5	調理スタッフ	毎回3～4名 地域のボランティア募集	個別にお願いして全11グループが参加頂けた
6	食材費提供	まち協予算より抽出、食材寄付、現金寄付をお願いする	野菜類(JA高取産直)米(JA高浜) お菓子類(マリオン)無償提供者を確保できた
7	消耗品費、その他経費	調味料、調理用品、食器、その他	まち協予算より抽出
8	対象児童の予測	高浜市在住児童 (平均来客数スタッフなどを含め30人程度を予測)	子どもの来訪数実績は4月2回18名 学校の戸別訪問結果を受け止め、体制を見直す
9	業許可取得	衛生管理責任者、防火管理責任者	現状の届け出済の管理体制で開始できる
10	その他	食事(無料)に来て子どもの相手をしてもらえる人があれば実行したい(宿題などの相手)	ゲーム、室内軽運動などを様子を見ながら整備する
		高浜南部まち協企画として・・・各家庭からの余剰となった物品の再活用を	衣類、筆記具、自転車等提供者、支援者があることは解ってきた、蓄積保管などを検討する、
		一食あたり平均費用200円程度(原価)を目標とする	一般の大人から300円を戴いている

「すこやかサタディ」に参加した子どもの声

南部まち協 子どもの健全育成グループ

質 問	回 答
おいしい？	むちゃおいしいよ。
何がおいしい？	隣としゃべりながら食べるとおいしいよ。 しゃべりながら笑いながらは良いね。 皆と一緒に食べるからおいしいし、楽しい。
カラオケはよくするの？	ほとんどやらない、できない。家にはないもの。
歌は好き？	ひとりで歌うのはつまらないけど、皆でやると聞いてくれるから好き。 先生たちも歌ってくれておもしろい。
上手だね。声も大きいし。	こんな大きな声は初めてだよ。
卓球上手にできる？	上手にできなくてもいいもん。楽しいもん。
時々やるの？	ここだけだよ。食事の後で遊べるなんてここだけだよ。
ここはどう？	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で遊べるのがうれしい。 ・ステップは勉強だけどここは遊べる。 ・お菓子くれるのがうれしい。 ・先生や皆でいろんなゲームは楽しい。 ・帰りは送ってもらえるからいつも来れるようになって良かった。
次もここへ来る？	いつも来ます。毎週土曜日あるといいのに。
ここの食事する場所にあるといいものは？	皆がいるから、今のままでうれしい。

食事の様子

